

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	19	課題区分	C	令和7年3月18日		
横断的な課題		地域の中で安心して生活できる環境を整え、次の世代につなぐ							
地域重点政策		3 地域の中で安心して生活できる環境を整え、次の世代につなぐ					北アルプス地域振興局		
実施機関		北アルプス地域振興局			担当課	所属	企画振興課		
事業名		JR大系線利活用促進の取組への支援事業				電話	0261-23-6501		
						E-mail	kitachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	北陸新幹線の敦賀延伸を契機に、関西からの観光誘客等によるJR大系線利用者の大幅な増加を図るため、今年度、沿線自治体、新潟長野の両県、JRでは、一丸となって大系線の利活用の取組を強化している。それらの広報の一環として、営業局で実施しているラジオ番組でその取り組みを紹介し、首都圏及び関西圏からの旅行者に対し大系線の利用促進を図る。							
	現状と課題	JR大系線は、沿線の人口減少や並行する国道148号の改良、降雨、降雪による運休が多いこと等から利用者が減少しており、JR西日本は、大系線の今後の在り方について「持続可能な路線の方策検討」をしたいとしてきた。しかし、県及び沿線自治体としては、利活用促進を先に進めるべきとの考えから議論が平行線で続いていたが、本年度は、「本格的な利用促進策・利便性の向上」を関係者が一丸となって取り組んでいくこととなった。 このため、県や大系線活性化協議会などの取組を広く周知し、事業効果を上げる必要がある。							
	内容 (変更後の内容)	1 ラジオ放送 営業局が信州ブランド発信の一環として行っている「長野県永久観光大使出演ラジオ番組」において、大系線利活用活性化に向けた事業を首都圏及び関西圏に向けてPRし、JR大系線及び増便バスの利用者増加を図る。 ○日 時 放送予定日 8月31日(土)17:45～18:00 ○ラジオ番組名 文化放送「峰竜太とみんなの信州」 ○聴取者プレゼント 松川村産白米コンヒカリ「鈴ひかり」5kg 5名分 2 ユーチューブ動画制作及び増便バス内へのぬいぐるみ配置 増便バス利用促進のためのショート動画を作成し、ユーチューブで配信する。 ○動画内容:白馬村のゆるキャラのぬいぐるみが、大阪から増便バスを利用して白馬村へ帰省し、アルクマと一緒に観光を楽しむというもの ○増便バス内へぬいぐるみ配置(アルクマ及び白馬村ゆるキャラ) 3 大系線セールス&PR((一社)長野県観光機構及び大系線活性化協議会と合同) 大系線の来年度グリーン期の商品造成に向けてのセールスを実施 ○訪問先:大阪市内旅行者(調整中) ○日程・場所:11月15日(金)大阪市内							
	事業期間	R6.8 ～ R7.3							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考		
	(事業1)聴取者あてプレゼント送付		プレゼント購入及び発送		22,150		米代 15,650円(@3,130円(5kg)×5名) 送料等 6,500円(5名) 計 22,150円		
	(事業2)動画編集		編集・BGM追加		55,000		業者委託		
	(事業2)動画撮影		職員旅費・ぬいぐるみ購入等		11,388		ぬいぐるみ(白馬+アルクマ)7,263円 バス内固定用ワイヤー4,125円(2個)		
	(事業3)大系線セールス		大阪市内の旅行者あてセールス実施		33,300		旅費 JR 24,240円 宿泊費1泊 9,060円		
合 計				121,838					
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況	
	聴取者プレゼント申込者数(当選者数5名)			20人以上		209件		○ 達成 ● 一部達成 ○ 未達成	
	動画再生回数(R7年3月まで)※3月17日時点			3,000回以上		691回			
	セールス実施旅行会社数			5社以上		5社			
事業実績・成果		・事業(1)ラジオ番組については、成果指標の目標を上回ることが出来た。ラジオの聴取者は16万人(想定)ということで、より多くの関西圏の人々にJR大系線の増便バスについて周知ができたと思われる。 ・事業(2)のショート動画については、成果指標の目標を下回っているが、中日新聞や信濃毎日新聞のWEB版などにも取り上げられた。また、局のSNSの他、県の魅力発信ブログや「動画で見る信州」などにも掲載し、より多くの人の目に触れることができたと思われる。継続して動画を作成する等、認知度を上げる取組が必要であると思われる。 ・事業(3)では、大阪市内の5社においてセールスを実施することができた。							
今後の方向性		引き続き、JR大系線の利活用促進について、効果的な広報、情報発信につながる事業へ取り組んでいく。							